

「牛伝染性リンパ腫から大切な牛を守りましょう」

令和6年度となりました。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

本格的な春を迎え、桜の開花の便りがあちこちで聞こえるようになりました。なんとなく気分はウキウキワクワクしますが、様々な厄介者達もそろそろ本格的に動き出す頃です。

そこで、今号は、今からはじめたい牛伝染性リンパ腫対策をお伝えします。

牛伝染性リンパ腫とは？

- ・ 治療法や有効なワクチンがない。
- ・ 感染牛(陽性牛)の発症率は数%。
- ・ 発症しなければ、普通に飼養でき、生乳や食肉の出荷は可能。
- ・ 発症牛は、死亡または安楽殺のうえ全廃棄。
- ・ 症状がなくても、と畜場の検査で発症が確認された場合も全廃棄。
- ・ 発症牛を出した畜産農家の経済的損失は大きい。
- ・ 多くの肥育農家は陽性牛の導入を避けたいと考えている。

R2年6月までは、「牛白血病」と呼んでいました。



発症ってどんな症状？

- ・ 特徴病変は全身性のリンパ肉腫（腫瘤）
- ・ 首などのリンパ節の腫れ、眼球の突出
- ・ 元気喪失、下痢、便秘、消瘦など

分娩の前後、飼養環境の変化、寒冷など大きなストレスがかかった時に発症しやすくなります。



どうやって感染する？

- ・ 感染はウイルスの伝播で起こる。
- ・ 血液や乳汁を介してウイルスが非感染牛(陰性牛)の体内に侵入することで伝播する。
- ・ 陽性牛の血を吸ったアブやサシバ工等の吸血昆虫が、陰性牛に飛び移り、陰性牛の血を吸うことで起こる伝播が感染拡大の大きな要因。

どうやって感染を防止する？

- ・ 血液検査で感染の有無を調べ、陽性牛と陰性牛を分離することが基本。
- ・ 分離は吸血昆虫が往来できないよう、防風ネット等の設置が効果的。
- ・ 分離せず、牛舎全体をネットで囲い、吸血昆虫の侵入を防ぐ方法も。

吸血昆虫の活動時期

● アブ：5月下～10月上

● サシバ工：5月上～12月上

注意



対策の例

お問い合わせ

奥州農業改良普及センター
☎ 0197-35-8451

一関農業改良普及センター
☎ 0191-52-4961

① 一関市 Aさんの場合

牛舎が複数あるため、牛舎ごとに陽性牛と陰性牛を分離して飼ってます！



ネット不要かつ
確実に分離でき
ます！



定期的に殺虫剤の散布もしてます！

② 奥州市 Bさんの場合

牛舎の全体をネットで囲い、
吸血昆虫の侵入を防いで飼ってます！

陽性牛 陰性牛 同居



③ 一関市 Cさんの場合

陽性牛と陰性牛の間は4m以上離します！

同一牛舎内で陽性牛と
陰性牛を離して飼ってます！



注目!

ネットの設置方法のいくつかを室根高原牧場で展示しています。是非ご覧になり、みなさんの牛舎に合った設置方法を見つけてください！
ご覧になりたい方は、事前に普及センターへご連絡を。



《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

～市場上場に向けた発育目標～

市場上場時	日齢	体高	体重	日増体重
去勢	270日	118cm	300kg	1.11kg
雌	270日	115cm	280kg	1.03kg

上場申込時	日齢	体高
去勢	210日	108cm
雌	210日	105cm

- ・子牛市場で高く評価される発育良好な牛づくりを目指しましょう。
- ・発育良好な牛が沢山上場される市場をみんなで作って行きましょう。

マニュアルの
ダウンロードは
こちら→



年間
シリーズ